令和7年度 生活指導方針

1. 『生徒指導提要（令和4年12月）』の考え方に基づく生活指導

一人一人の生徒の人格が尊重され、生徒自らが個性や可能性の伸長を図りながら、社会的資質・能力を獲得し、それらを行って自己実現を果たすことを支える。

2. 生活指導の実践

- (1) 自己存在感の感受「一人の人間として生徒を大切にする」
- (2) 共感的な人間関係の育成「認め合い、励まし合い、支え合える学習集団の形成」
- (3) 自己決定の場の提供「自ら考え、選択し、決定して意見を述べる体験をさせる」
- (4) 安全・安心な風土の醸成「いじめ・暴力・暴言の撲滅」

3. 生活指導の内容

- (1) 発達支持的生徒指導（全ての生徒の発達を支える視点）
「挨拶」「時間を守る」「忘れ物をしない」「思いやり」「整理整頓・持ち物の管理」
「決まり(生徒手帳記載)の遵守」「人権意識の醸成」＝社会的資質・能力の育成
- (2) 課題予防的生徒指導（課題を未然に防ぐ視点 変化に気づき、早期に対応する）
「いじめ防止教育」「SOSの出し方教育」「薬物乱用防止教育」
「情報モラル教育」など＝年間指導計画に位置付け、実践する
「いじめ対応学年会」「いじめアンケート」「生活アンケート」
「成績・遅刻・早退・欠席などの変化」「身だしなみの変化」＝課題の早期発見
- (3) 困難課題対応的生徒指導
いじめ、不登校、非行、虐待など、特別な指導・援助を必要とする生徒を対象に、校内の教職員（教員、SC、SSW、スクールロイヤー等）と教育委員会、警察、病院、児童相談所等との連携・協働による課題解決を行う。

4. 教職員 共通理解項目

令和7年度の生活指導 重点目標

場に応じて自己決定し、調和した行動のとれる生徒の育成。

- 「生徒の人権を尊重する意識を持つ」「社会性の育成の観点からの声掛け」
「報告、相談、共有（発見者→学年→生活指導主任→副校長→校長）」

5. 細目

- (1) いじめアンケート…八王子の様式で年3回（6月・11月・3月）行う。
- (2) 生活アンケート…2週間に1回行う。
- (3) 学校連絡カード…入学時に記入。

- (4) 携帯電話は許可制とし、朝学活で預かる。校内では使用させない。
- (5) 保健室の利用は、1日1時間までとする。回復しない場合は、早退して病院を受診するか自宅で療養する。(1日の最後の1時間は、保健室利用できない=早退)
- (6) 生徒の個別対応は、空き時間の教員が必ず付き、1日1時間までとする。

6. 生活指導部分担

- 【南】○校内生活指導…朝礼・集会指導・アンケート集計分析確認・生徒手帳作成・学校連絡カード・個人写真・長期休業前の指導
 - 校外生活指導…他校生の対応
 - 各種関係機関
 - いじめ対策…いじめ対策委員会企画運営・いじめアンケート集計報告
- 【斎藤】○安全指導…計画編成・実施管理・セーフティ教室企画運営
 - 避難訓練…年間指導計画編成・企画運営・講師等との連絡調整・引き取り訓練企画運営・地域防災訓練企画運営
 - 施設管理関係…校舎教室配置図・イス机調査関係・清掃分担・大掃除指導
- 【橋口】○保健…保健行事の年間計画作成・学校医との連絡調整・健康診断の企画運営・喫煙防止教室企画運営・薬物乱用防止教室企画運営・学校保健委員会企画運営
 - 給食…教育指導課給食担当との連携・食事事務
 - 施設開放…昼休みにおける学校施設開放の管理運営
- 【宇根】○部活動…全体指導・部活保護者会・部長会・生徒派遣費・中体連学校代表
 - 生徒会…生徒会本部の指導・選挙管理委員会の運営
- 【菊池】○生活指導事務…携帯電話申請・破損届・落とし物管理・校章管理

八王子市立甲ノ原中学校「学校いじめ防止基本方針」

八王子市「いじめ防止基本方針」

八王子市では、「いじめ防止対策推進法」並びに「東京都いじめ防止対策推進条例」に基づき、「八王子市いじめ防止基本方針」を定め、これまで以上に学校、教育委員会、さらには家庭や地域を含めた社会全体が一丸となって、いじめ問題への取組を推進している。

1 いじめ防止に向けた基本的な方針

(1) 基本理念

いじめは、どの生徒にも、どの学校でも起こりうるものである。そのため、全ての生徒を対象とした、いじめ未然防止の観点が必要であり、学校教育活動全体を通じて、「いじめは決して許されない。」という指導を徹底するとともに、豊かな情操や道徳心、自分の存在と他人の存在を等しく認め、お互いの人格を尊重し合う態度を養うことが重要である。

(2) いじめの定義

「いじめ」とは、生徒に対して、その生徒と一定の人間関係をもつ他の生徒が行う心理的、または、物理的な影響を与える行為（インターネット等の情報手段を通じて行われるものを含む。）であり、その行為の対象となった生徒が心身の苦痛を感じているものを言う。

(3) いじめの禁止

生徒はいじめを行ってはならない。

(4) 学校及び職員の責務

学校は、「いじめがどの学校、どの学年・学級にも起こりうる」という認識に立ち、すべての生徒が安心して学習、その他の活動に取り組むことができるように、保護者等の関係者と連携を図りながら、学校全体でいじめの未然防止と早期発見に取り組むこととする。なお、いじめの訴えやいじめが疑われる事象があった場合には、適切かつ迅速にこれに対処し、その再発防止の徹底に努め、指導・観察等を継続的に実施する。

2 いじめ防止に関する対策

(1) いじめ未然防止に対する対策

- ① 学校教育目標「思いやりの心」の具現化を図り、いじめを見過ごさないことについて

て全教育活動を通して継続的に指導をする。

- ② 基本方針の内容説明を始業式、全校朝礼、保護者会等で行う。
- ③ 道徳授業での啓発（「思いやりの心」「生命尊重」等をテーマに学期1回のペースで実施）をする。
- ④ SNS 東京ルール、甲ノ原中学校 SNS 利用上のルールを周知する。
SNS などを利用した、いじめ防止を図るセーフティ教室を実施する。
- ⑤ 教員研修を充実させ、いじめ対策委員会を設置する。

(2) いじめ早期発見に対する取組

- ① いじめは常に起こりうるとの意識を高く持ち、生徒観察に努める。
- ② 新1年生を対象とするスクールカウンセラーによる全員面接（1学期）
- ③ 年3回いじめアンケートの実施。集計し、必要に応じて、迅速な対応を行う。
- ④ 2週間に1回、生活アンケートの実施。金曜6時間目のいじめ対策学年会での情報共有。
- ⑤ 学級担任等による生徒や保護者との面談による情報の収集。

(3) いじめ早期対応に対する対策

- ① いじめ対策委員会を速やかに設置する。
- ② いじめ問題が生じた時には、詳細な事実確認に基づき早期に適切な対策を行う。
- ③ いじめられている生徒や保護者の立場に立つ。
- ④ 学級担任等が抱え込むことがないように、学校全体で組織的に対応する。
- ⑤ いじめの事実が確認された場合は、いじめをやめさせ、その再発防止を行う。
- ⑥ 犯罪行為として扱われるべきいじめについては教育委員会及び所轄警察署と連携して対処する。

(4) 校内組織について

- ① 生活指導部の下、いじめ対策委員会を置く。
組織の構成は、校長、副校長、生活指導主任、教務主任、進路指導主任、不登校対策主任、各学年主任、養護教諭、スクールカウンセラーとする。
- ② 定期的に生徒の情報を共有し、組織的に対応する。年間の活動方針と計画に基づいた定期的な会議の設定を図る。